



# Initial experience of the l-gel supraglottic airway by residents in pediatric patients.

著者名	虻川 有香子
発行年	2014-09-19
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/30823">http://hdl.handle.net/10470/30823</a>

## 主論文の要旨

Initial experience of the I-gel supraglottic airway by residents in pediatric patients.

(研修医による小児用声門上器具 I-gel の有用性と安全性について)

東京女子医科大学麻酔科学教室

(主任：尾崎 眞教授)

虻川 有香子

Journal of Anesthesia Volume 26, Issue 3, p357-361, 2012

(平成 24 年 2 月 7 日発行) に掲載

### 【要 旨】

小児において声門上器具の挿入は、解剖学的要因や多様性により困難なことがある。近年新しいタイプの声門上器具の小児用 I-gel が発売された。小児に慣れていない研修医が小児用 I-gel を挿入した場合の有用性と安全性について検討した。倫理委員会承諾後、両親の同意を得、予定手術小児患者 ASA I ~ II の 70 名を対象とした。患児を体重により 3 つに分けた。(グループ 1 : 体重 5 ~ 12 kg はサイズ 1.5、グループ 2 : 体重 10 ~ 25 kg はサイズ 2、グループ 3 : 体重 25 ~ 35 kg はサイズ 2.5) 以下の 7 項目について評価した。1) 小児用 I-gel と胃管の挿入の成功率 2) リーク圧 3) リーク圧の体重あたりの換気量 4) 気管ファイバーにおける喉頭蓋陥入の割合 5) I-gel の挿入時間 6) 低酸素の頻度 7) 抜去時の血液付着、嘔声の有無である。全体の I-gel 挿入の成功率は 99%、胃管挿入の成功率は 100%であった。リーク圧は  $23 \pm 5 \text{ cmH}_2\text{O}$ 、体重あたりの換気量は、 $24 \pm 10 \text{ ml/kg}$  だった。79% はファイバーで声帯がしっかりとみえた。挿入時間は  $24 \pm 9$  秒だった。サイズ 1.5 は、合併症がおこる確率が高かった。あまり小児に慣れていない研修医にも小児用 I-gel は安全で有用なデバイスと考えられた。1.5 のサイズでは、他の声門上器具と同様に注意を払わなければならない。